令和５年度　数学科　授業改善推進プラン

台東区立駒形中学校

	生徒の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	テストでは多数の誤答が見受けられることから、生徒は理解したつもりでも、基本的な四則計算を始め、学習した内容が定着しているとは言えない。 説明をしっかり聞く力、式を正しく読みとる力が必要である。	数学の学習は、数の範囲を拡張することから始まる。特に符号と文字を含めた計算に十分に習熟させること大切であり、今後の学習の土台となる。正負の数の四則の計算と、１次式の基本的な計算ができる能力の育成を目指す。	授業規律を守り、少人数授業でのきめ細かい指導を継続していく。演習の機会を増やすために、朝学習や家庭学習に取り組ませる。 計算途中の式の筆記などをていねいに取り組ませる。定期考査後の解き直しレポートを作成させ、学習の振り返りを行い、生徒がより主体的に学習していけるよう指導していく。
第2学年	定期考査では、思考力を問うような問題に果敢に挑戦し正答できている生徒が増えてきた一方、基本問題で手が止まってしまう生徒も一定数いる。基礎・基本の更なる徹底と主体的に取り組む学習意欲の向上を目指していきたい。	1 年学年で学習した内容を踏まえ、基礎的な計算力の向上を図るとともに、特に「証明問題」を中心に扱い、習得した知識・技能を用いて論理的に説明する力の育成を目指す。	第１学年で学んだ数学との関連を常に意識させ、数式と文章で証明する力を身に付けさせるために、何が仮定で何が結論なのかをはっきりさせ、論証できるように指導する。 問題を解くだけでなく、学習内容に即した課題レポートなどに取り組み、数学的な表現力を育成できるよう指導する。
第3学年	３年間を通し、基礎力が向上してきている生徒が増えてきている一方、基礎的な計算でつまずきが見られる生徒も見られる。高校入試に向けて確実な基礎学力を定着させていくと共に、数学的な思考力の向上も図っていきたい。	中学校で学習した数学の集大成として、習得した知識・技能を用いて、物事を数学的な見方・考え方で捉え、数学的に考える力・論理的に説明する力の育成を目指す。	各単元の終わりに、振り返りシートを実施し、その単元で学習したポイントを書かせることで自身の学びを振り返り、今後の学びへの手がかりとする。 また、ＩＣＴ機器を用いて生徒が自身のペースで問題に取り組み、自身の学習に粘り強く取り組めるようにする。